# エコアクション２１

# 環境活動レポート

**第50期**

**（2016年10月～2017年9月）**

## 株式会社　カンサイ

発行日　2017年10月30日
改訂日　2018年02月01日

# 目次


ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

1. 会社概要・沿革等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2. 環境方針等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

3. 推進体制並びに責任と権限

（1）推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

（2）責任と権限・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

4. 環境負荷の実績と考察46期～50期

（1）実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6・7

（2）考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

5. 50期の環境活動計画と中期環境目標

（1）50期の環境活動計画 ・・・・・・・・・・・・ 8

（2）中期環境目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

6. 各部署50期の取組みと実績・評価 ・・・・・・・・・・ 10～28

7. 51期の環境活動計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

8. 第三者意見 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

9. 環境関連法規・訴訟等の有無 ・・・・・・・・・・・・ 31

10. 許認可情報等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32～35

11. 代表者による全体評価と見直しの結果 ・・・ 36

12. 編集後記 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36


| | | |
|---|---|---|
| 対象事業所 | 本社 | 広島県広島市佐伯区五日市町大字石内460番地 |
| | 本社工場 | 広島県広島市佐伯区五日市町大字石内460番地 |
| | 倉橋工場 | 広島県呉市倉橋町字田野尻山935番地 |
| 対象期間 | 2016年10月～2017年9月（第50期） | |
| 認証番号 | 0004647 | |
| 認証登録日 | 2010年2月22日 | |

# ご挨拶

## 原点

株式会社カンサイは、創業以来「人と人との調和　人と自然との調和を大切に」という考えのもと、廃棄物処理業・リサイクル業を追求してきました。
また、2013年4月、企業理念として、

全従業員の物心両面の幸せを追求するとともに、
併せて人類と自然との調和を大切にする

を制定しました。これは株式会社カンサイの企業活動の原点であり、判断や行動の拠り所になるものです。目先の利益にとらわれるのではなく、全社員が人として何が正しいのかを基準に考え行動し続けることにより、安心・安全なサービスを提供できると考えています。

## 創意工夫

株式会社カンサイは、「廃棄物処理」を起点に事業を拡大してきました。また自然環境の保全、資源の有効利用を推進する循環型社会基本法、個別物品に応じたリサイクル関連法が制定されました。そうした社会背景から、当社に廃棄物処理をご依頼頂くお客様のニーズも多様化しています。車両の更新、廃棄物処理施設・リサイクル施設の高度化は元より、ニーズにお応えするための技術革新、そして進化をもたらす人材育成に努め、社会からの期待に応え、さらなる成長をめざしていきます。

## 調和

株式会社カンサイは、「人・社会・環境」との調和を図ることで、社会から存在意義を認めて頂ける企業であり続けたいと考えています。工場見学者の受入、情報開示、地域交流や協賛を長期に渡って取り組んでまいりました。
また、社会貢献活動の一環として、平成17年に循環型農園「きなり村」を開設いたしました。食に対する関心が高まっている中、当社のリサイクル製品である肥料を使用し、化学肥料や農薬を使用しない有機農法によって作物を栽培し、都市部へ循環させるという取り組みを行っています。
これからも「人と自然との調和を大切に」し、社会との共生を図り、「環境創造総合企業」として社会の持続的発展に貢献し続けたいと考えています。

株式会社　カンサイ
代表取締役　川本義二

# 1. 会社概要・沿革等

## 会 社 概 要

| | |
|---|---|
| 会　社　名 | 株式会社カンサイ |
| 所　在　地 | 広島県広島市佐伯区五日市町大字石内460番地<br>ＴＥＬ：（082）941-1641<br>ＦＡＸ：（082）941-1715 |
| 代　表　者 | 代表取締役社長　川本　義二 |
| 環境管理責任者 | 環境事業部部長　北川　貴伸 |
| エコアクション21事務局 | 総務部　舛本　奈美 |
| 従 業 員 数 | 43名 |
| 敷 地 面 積 | 13,838㎡ |
| 資　本　金 | 18.4百万円 |
| 中間処理量 | 第50期　13,860ｔ |
| 収集運搬量 | 第50期　6,197ｔ |
| 売　上　高 | 第50期　662百万円 |
| Ｕ　Ｒ　Ｌ | http://ekansai.co.jp |
| 事 業 内 容 | 一般廃棄物、産業廃棄物収集運搬処理<br>建設土木工事<br>総合リサイクル業<br>環境衛生プラントの運転管理、メンテナンス<br>環境計量証明事業<br>肥料製造業<br>上下水道の調査 |

## 沿　革

1968年2月
　産業廃棄物処理を目的に関西特殊産業株式会社を設立

1972年9月
　産業廃棄物の収集運搬処理の許可を取得

1979年7月
　ロータリーキルン式焼却炉を設置

1979年10月
　汚泥肥料生産　肥料生産販売業届出

1982年4月
　環境計量室を新設

1985年12月
　倉橋工場を新設

1991年10月
　回転炉床式焼却炉を設置

1998年10月
　株式会社カンサイに社名を変更

2010年２月
　エコアクション21認証取得

2014年7月
　広島県特別管理廃棄物収集運搬業許可の優良認定

2015年9月
　回転炉床式焼却炉にバグフィルター設置

# 2. 環境方針等

## 〈 社　　是 〉

**人と人との調和**
**人と自然との調和を大切に**

## 〈 企 業 理 念 〉

**全従業員の物心両面の幸せを追求するとともに**
**併せて人類と自然（全人類 大自然）との調和を大切にする**

## 〈 環 境 方 針 〉

「人と自然との調和を大切に」

私たちは、人と自然との調和を大切にし、地域社会と利害関係者とのふれ合いを図り、技術と知恵と勇気を持って環境問題に積極的に取り組み、広く社会に貢献できる企業を目指します。

## 〈 行 動 指 針 〉

私たちは省エネ・省資源をはじめ、地球環境の保全と、資源の有効利用に弛まない努力と創意工夫を行い地域社会の一員として健全なる社会の発展に貢献いたします。

## 〈 基 本 方 針 〉

1．資源の節約と再利用を促進し、環境と資源の保全に努めます。
- $CO_2$排出量の低減や森林資源の保護、バイオマス利活用による$CO_2$吸収、エネルギーの有効活用等に寄与します。
- 廃棄物の削減、資源化率の向上を推進いたします。
- 資源循環の技術開発を積極的に推進いたします。

2．事業に関連する全ての法律を遵守します。

3．環境マネジメントシステムの効率的な運用を行い、環境負荷の低減に努めます。

4．情報はホームページ、電子掲示板、ポスター等により、全ての関係者に広く公開いたします。

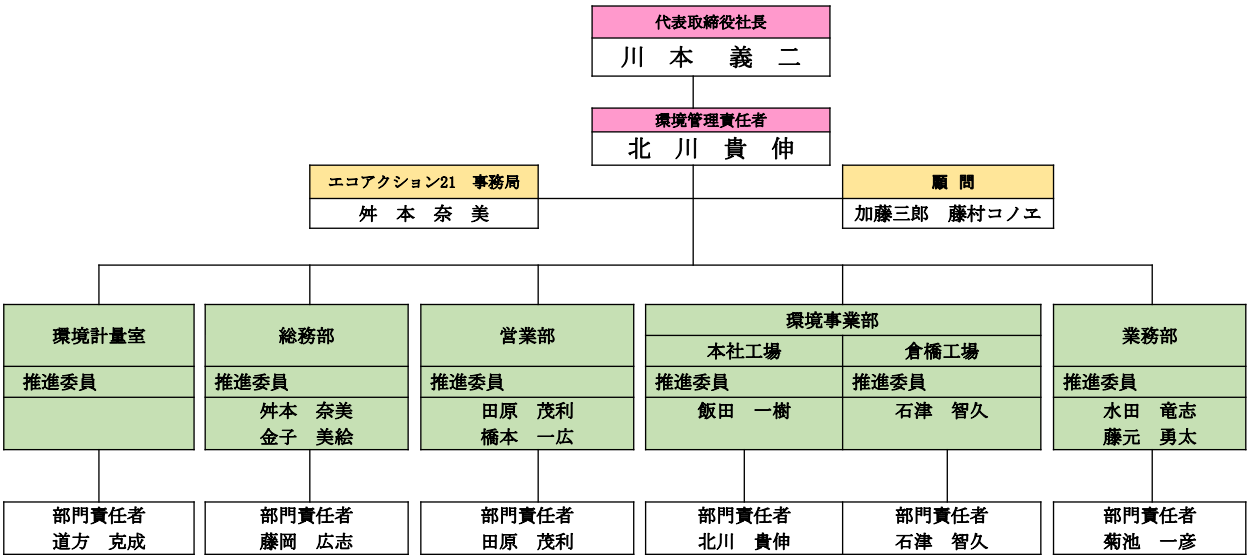
制定　２００９年１０月１日
改訂　２０１４年　３月１日

株式会社 カンサイ
代表取締役社長　川本義二

# 3. 推進体制並びに責任と権限

## （1）推進体制

当社はエコアクション21（EA21）推進委員を中心とした体制で、
環境対応に取組んでいます。




## （2）責任と権限

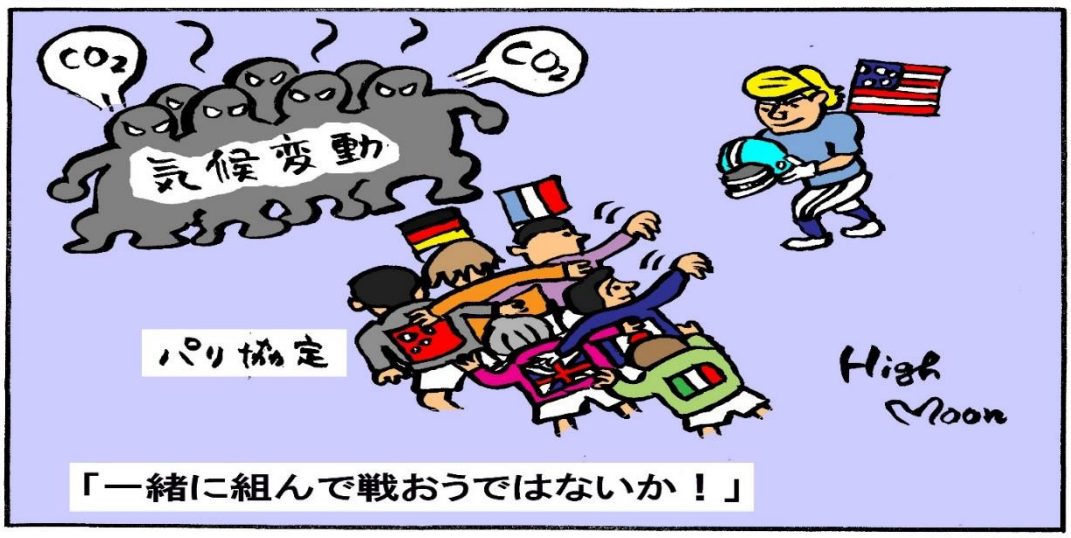
| 責任及び権限 | |
|---|---|
| 統括<br>（代表取締役社長） | ① 環境方針の策定と全従業員への周知<br>② 環境管理責任者の任命<br>③ 運用に必要な人材、設備、費用、時間の準備<br>④ 全体の取組み状況の評価、見直し |
| 環境管理責任者 | ① 環境活動の取組み結果を代表者へ報告<br>② 環境力道場の開催 |
| エコアクション21<br>推進責任者 | ① エコアクション21事務局の総括<br>② 一般教育の計画、実施<br>③ 環境力道場の運営 |
| エコアクション21<br>事務局 | ① 環境データの集計、取りまとめ<br>② 環境関連文書及び記録の管理<br>③ 外部からの環境に関する苦情、要望の受付及び対応 |
| 推進委員 | ① 各部門における環境活動の管理<br>② 環境活動実績の把握と事務局への報告 |
| 部門責任者 | ① 自部門の環境活動の責任者<br>② 実務教育・訓練（専門教育）の計画、実施 |
| 全従業員 | ① 環境方針の理解と環境への取組みの重要性を自覚<br>② 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加 |

# 4. 環境負荷の実績と考察 46期～50期（2012年～2017年）

## （1）実績

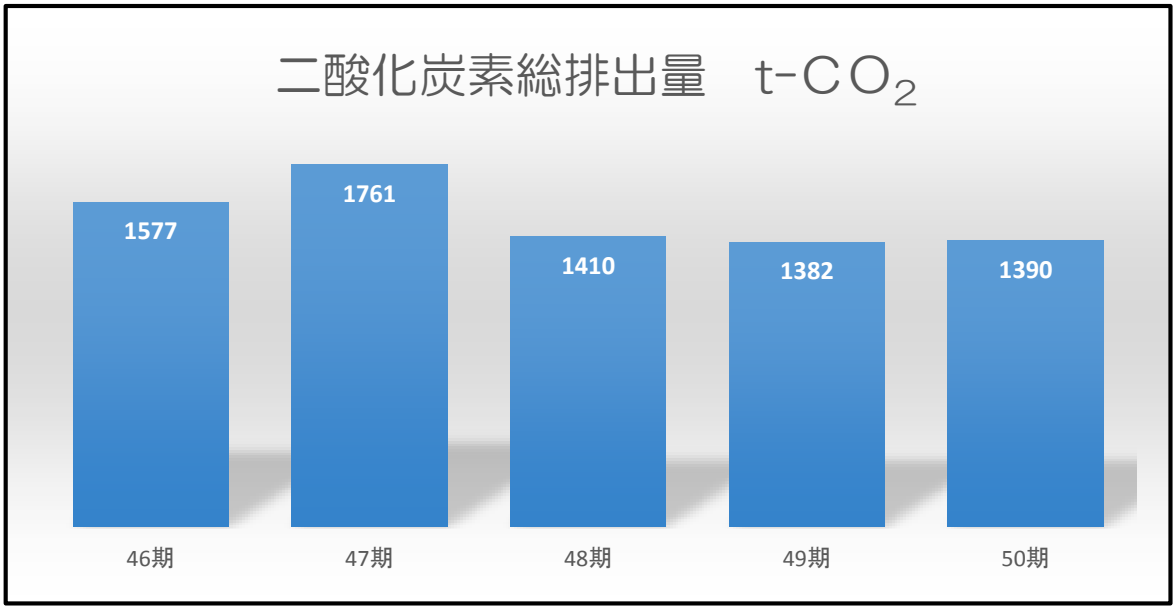
| | | 単位 | 46期 | 47期 | 48期 | 49期 | 50期 | 排出係数 | 50期$CO_2$排出量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 二酸化炭素等総排出量 | 電力（本社工場・倉橋工場） | kwh | 726,212 | 798,651 | 664,915 | 727,601 | 736,105 | ＊0.738 | 543 |
| | | 前年対比% | 53%↑ | 10%↑ | 17%↓ | 9%↑ | 1%↑ | | 1%↑ |
| | ※比較数値 排出係数（0.694） | t-$CO_2$ | 504 | 554 | 461 | 505 | 511 | ＊0.694 | 511 |
| | | | | | | | | | 5.9%↓ |
| | 電力 （事務所・休憩所・きなり村） | kwh | 207,710 | 223,976 | 232,210 | 84,631 | 82,293 | ＊0.738 | 61 |
| | | 前年対比% | 25%↑ | 8%↑ | 4%↑ | 64%↓ | 3%↓ | | 2%↓ |
| | ※比較数値 排出係数（0.694） | t-$CO_2$ | 144 | 155 | 161 | 59 | 57 | ＊0.694 | 57 |
| | | | | | | | | | 6.6%↓ |
| | 灯油 | ℓ | 2,863 | 745 | 745 | - | - | 0.0679 | - |
| | | 前年対比% | 360%↑ | 74%↓ | 39%↓ | - | - | | - |
| | A重油 | ℓ | 288,000 | 221,066 | 116,088 | 137,450 | 137,378 | 0.0693 | 372 |
| | | 前年対比% | 17%↓ | 23%↓ | 47%↓ | 18%↑ | 0.1%↓ | | |
| | 低硫黄重油 | ℓ | 10,230 | 1,375 | - | - | - | 0.0513 | - |
| | | 前年対比% | 5%↑ | 87%↓ | - | - | - | | - |
| | LPG | kg | 477 | 529 | 492 | 699 | 332 | 0.0598 | 1 |
| | | 前年対比% | 30%↑ | 11%↑ | 7%↓ | 42%↑ | 53%↓ | | 50%↓ |
| | ガソリン | ℓ | 16,660 | 17,069 | 16,495 | 11,967 | 11,841 | 0.0671 | 27 |
| | | 前年対比% | 3%↓ | 2%↑ | 3%↓ | 28%↓ | 1.1%↓ | | 1.8%↓ |
| | 軽油 | ℓ | 142,629 | 137,595 | 133,797 | 145,220 | 146,897 | 0.0687 | 386 |
| | | 前年対比% | 22%↑ | 4%↓ | 3%↓ | 9%↑ | 1.2%↑ | | 1.3%↑ |
| 合計 | | t-$CO_2$ | 1,577 | 1,761 | 1,410 | 1,382 | 1,390 | | 1,390 |
| | | 前年対比% | 4.6%↓ | 12%↑ | 20%↓ | 2%↓ | 0.6%↑ | | 0.6%↑ |
| | 総排水量（事務所・倉橋工場） | $m^3$ | 600 | 1,381 | 1,419 | 1,533 | 1,461 | | |
| | | 前年対比% | 7.8%↓ | 130%↑ | 2%↑ | 8%↑ | 5%↓ | | |
| | 廃棄物排出量 | t | 4,636 | 4,323 | 4,785 | 4,687 | 4,131 | | |
| | | 前年対比% | 4%↓ | 7%↓ | 11%↑ | 2%↓ | 12%↓ | | |

※二酸化炭素排出量は、エネルギー種類ごとに消費量×二酸化炭素排出係数×単位発熱量を掛け合わせた数字です。この表では各期の消費量の実績と50期二酸化炭素排出量を掲載しています。
※47期に電力の排出係数見直しを行いました。（46期までは0.3780kg-$CO_2$/kWh）
※51期からは、中国電力公表の最新排出係数（0.694kg-$CO_2$/kwh）に見直しをしますので、比較表を掲載しています。
※環境省2014年公表電力事業社別$CO_2$排出係数は、中国電力0.719kg-$CO_2$/kWhですが、前年との比較と経過観察のため、47期～50期まで環境省2013年公表電気事業者別$CO_2$排出係数（中国電力0.738kg-$CO_2$/kWh）を使用。51期～53期は最新排出係数 （中国電力0.694kg-$CO_2$）を使用します。



# 4. 環境負荷の実績と考察 46期～50期（2012年～2017年）

## （1）実績




## （2）考察

$CO_2$総排出量は、49期と比較して8ｔ-$CO_2$の増加となりました。要因とては、本社工場ロータリーキルン炉 の稼動が増えて49期より59､5ｔ-$CO_2$増加した結果総排出の増加となりました。しかし、その他の取組みでは49期に比べ、業務部は4ｔ-$CO_2$、本社事務所は3ｔ-$CO_2$、倉橋工場に至っては24ｔ-$CO_2$の削減ができました。

本社工場は、ロータリーキルン炉の稼動によるＡ重油の使用量が増加しましたが、回転炉床のＡ重油の使用は49期より削減できた結果、両焼却炉のＡ重油使用量を合わせると49期とほぼ同じでした。しかし、電気使用量は稼動に比例するので増加しました。対策として、まだＬＥＤ化できていない工場内照明の更新など取組む余地は十分にあり早期に実施する必要があります。

業務部は、仕事の内容により燃料使用量が左右されますが、収集ルートの検討と見直しによる地道な取組みや、低燃費車への更新を計画立てて実施します。

倉橋工場は、50期の取組みを継続して削減に努めます。

本社事務所は、気温に左右されることの少ない照明による電気使用量削減にむけて、こまめな節電の意識を全社員に働きかけて、今以上に全社的な取組みにします。事務所のＬＥＤ化を調査し代表者に提案して実施します。

営業部は、引き続き営業活動の効率化による削減に努めます。

取組みの年数が経過するにつれて大幅な削減は難しくなってきていますが、50期のようにロータリーキルン炉で増加しても、他部署での取組みにより増加を最小限に止められたことを教訓にして、今後も全社にて$CO_2$排出量削減に努めます。
また、パリ協定発効による温暖化ガス規制を注意深く観察しつつ、情報を収集して時代の変化に速やかに対応できる体制づくりに努めます。

# 5. 50期の環境活動計画と中期環境目標

## （1）50期の環境活動計画

| | 目標 | 活動内容 | 実施時期 | 該当部門 |
|---|---|---|---|---|
| 1. 環境 | （1）回転炉床・ロータリーキルンの重油使用量の削減 | 管理体制の強化、随時改善する<br>プラント運転管理者の技術の向上 | 通年 | 本社工場 |
| | （2）業務車両のガソリン・軽油使用量の削減 | ドライブレコーダーの運用<br>および管理体制の強化 | 通年 | 業務部 |
| | （3）営業車両のガソリン使用量の削減 | エコ運転の教育・徹底 | 通年 | 営業部 |
| | （4）重機の軽油使用量の削減 | 点検マニュアルの改善<br>および管理体制の強化 | 通年 | 倉橋工場 |
| | （5）事務所電力使用量の削減 | こまめな節電 | 通年 | 環境計量室 |
| | （6）ムリ・ムダ・ムラの排除 | 仕事内容の精査と見直し | 通年 | 全社員 |
| | （7）場内全域の環境対策 | 廃棄物の受入れ設備・保管設備の改良 | 通年 | 本社工場 |
| | （8）施設の改善 | 保管場所の整備・搬入ルートの改善 | 通年 | 本社工場<br>倉橋工場 |
| | （9）在庫管理の強化 | 処理スケジュール作成による管理と実施 | 通年 | 本社工場<br>倉橋工場 |
| | （10）緊急事態（自然災害）への対応 | 自然災害へのリスク調査（中期計画） | 通年 | 本社工場<br>倉橋工場 |
| | （11）各環境測定の実施 | ダイオキシン測定ほか | 通年 | 本社工場 |
| | （12）燃え殻・汚泥・・肥料・排水維持管理 | 分析及び各部署への伝達 | 通年 | 環境計量室 |
| | （13）環境活動レポートの作成 | １０月初旬に50期版を発行 | 9～10月 | ＥＡ21推進メンバー |
| 2. コミュニケーション | （1）ステークホルダーからの要望への対応 | お客様の要望・意見・提案の回覧と共有 | 通年 | 全部署 |
| | （2）情報の共有化 | 新システム導入によるスケジュール管理 | 通年 | 営業部 |
| | （3）社員とのつながり | 毎月誕生月の人をお祝する<br>永年勤続者の表彰 | 通年 | 総務部 |
| | （4）家族とのつながり | 社内報の内容を充実させる | 年4回 | 営業部 |
| | | 家族会の企画・実施 | 6月 | 総務部 |
| | （5）ステークホルダーとのつながりの拡充 | 地域清掃活動への参加 | 通年 | 営業部 |
| | （6）仕事の共有と効率化 | 経営企画会議の開催 | 年6回 | 各部門長 |
| | （7）見学者の受け入れ拡充 | 部署間での事前協議 | 通年 | 営業部 |
| | （8）積極的な情報公開 | ホームページの充実 | 通年 | 総務部 |
| 3. 教育 | （1）自社活動内容の理解度向上 | 年1回全体教育の実施 | 5月 | EA21事務局 |
| | （2）資格取得へのチャレンジ | リストアップと計画取得 | 通年 | 全部署 |
| | （3）知識の向上 | 随時各講習会、講義への参加 | 通年 | 全部署 |
| 4. 安全衛生 | （1）1年間無事故無災害 | 指差し確認の徹底と啓発 | 通年 | 本社工場<br>倉橋工場<br>業務部 |
| | （2）交通事故の防止 | 事故事例の再検証 | 通年 | 業務部 |
| | （3）飲酒運転禁止 | アルコールチェッカーの運用<br>（基準値0mg） | 通年 | 業務部 |
| | （4）5S活動の推進<br>（整理・整頓・清掃・清潔・躾） | 毎週金曜日の清掃活動 | 通年 | 全部署 |
| | （5）安全衛生協議 | 月次報告会内にて設置 | 月/1回 | EA21事務局 |

作成日　2016/9/26

# 5. 50期の環境活動計画と中期環境目標

## （2）中期環境目標

| | 取組み事項 | 51期（2017年10月～2018年9月） | 52期（2018年10月～2019年9月） | 53期（2019年10月～2020年9月） |
|---|---|---|---|---|
| 全体 | $CO_2$総排出量（基準年48期～50期平均） | 1,337 | 1,324 | 1,310 |
| | $CO_2$排出量の削減（基準年48期～50期平均） | 1%削減 | 1%削減 | 1%削減 |
| 本社工場 | 回転炉床A重油使用$CO_2$の削減（t-$CO_2$） | 191.5 | 189.6 | 188.6 |
| | 回転炉床A重油使用量の削減（ℓ） | 70,675 | 69,973 | 69,604 |
| | ロータリーキルンA重油使用$CO_2$の削減（t-$CO_2$） | 169.4 | 169.1 | 168.8 |
| | ロータリーキルンA重油使用量の削減（ℓ） | 62,518 | 62,408 | 62,297 |
| | 回転炉床電力使用$CO_2$の削減（t-$CO_2$） | 229.4 | 229.2 | 228.9 |
| | 回転炉床電力使用量の削減（kwh） | 330,548 | 330,259 | 329,827 |
| 業務部 | 業務車両$CO_2$排出量の削減（t-$CO_2$） | 251.6 | 249.1 | 246.7 |
| 営業部 | 営業車両$CO_2$排出量の削減（t-$CO_2$） | 17.4 | 17.2 | 17.0 |
| | 営業車両ガソリン使用量の削減（ℓ） | 7,495 | 7,408 | 7,322 |
| 事務所 | 電力使用$CO_2$排出量の削減（t-$CO_2$） | 39.7 | 39.3 | 38.9 |
| | 電力使用量の削減（kwh） | 57,205 | 56,628 | 56,052 |
| 倉橋工場 | 倉橋工場軽油使用の総排出量の削減（t-$CO_2$） | 77.6 | 76.8 | 76.0 |
| | 倉橋工場軽油使用量の削減（ℓ） | 29,570 | 29,265 | 28,960 |
| | 倉橋工場電力使用$CO_2$排出量の削減（t-$CO_2$） | 155.4 | 153.8 | 152.3 |
| | 倉橋工場電力使用量の削減（kwh） | 223,919 | 221,614 | 219,452 |

※基準年を48期から50期の過去3年の平均値を基に設定しています。

※50期以降の電力$CO_2$削減量目標値は、排出係数0.694kg-$CO_2$を使用しています。（中国電力公表値）

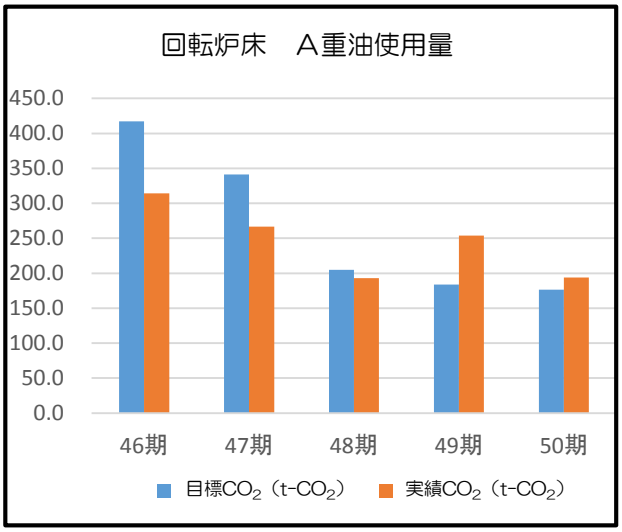
※3年ごとに最新の電力排出係数の見直しをしていきます。

※目標に対する実績が未達成の場合、その実績値を元に見直しを検討します。

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価

５（1）の計画（P.7）に沿って取組みと実績を報告します。

## （1）本社工場の取組み
### 1）$CO_2$の削減など

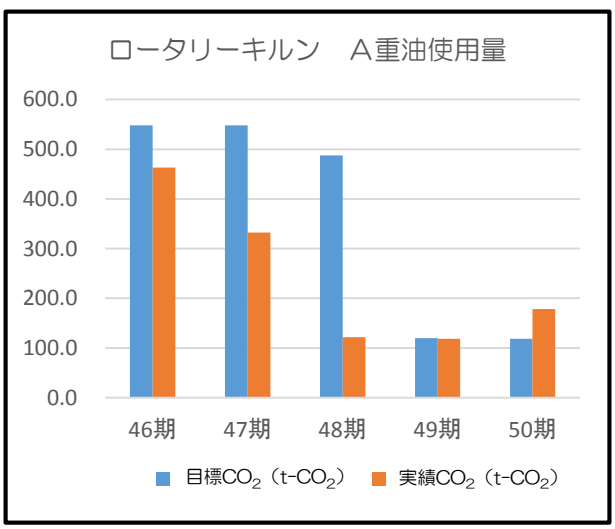



【取組み】
・毎日の使用量を記録して、月の終わりに進捗状況の見直しを行いました。
・昨年に引き続き、毎月の個人別目標達成表を掲示して、焼却炉運転管理者の意識向上に努めました。
・炉内温度の急激な昇温によるエネルギーのロスを削減するよう、温度管理の徹底に努めました。

【実績・評価】
・目標176.7t-$CO_2$に対して実績194.0t-$CO_2$と目標達成に至りませんでした。
・目標を意識し、運転に努めた結果、昨年より大幅な削減は出来ましたが、今一歩削減が足らず、未達となりました。

【今後】
・使用量の多い日の翌日には、直ぐに原因を検証することで目標達成を目指します。

| | 単位 | 目標 | 実績 | $CO_2$削減率 | |
|---|---|---|---|---|---|
| $CO_2$排出量<br>回転炉床式焼却炉<br>A重油 | t-$CO_2$ | 176.7 | 194.0 | 9.8%増加 | |
| | ℓ | 65,212 | 71,586 | | |



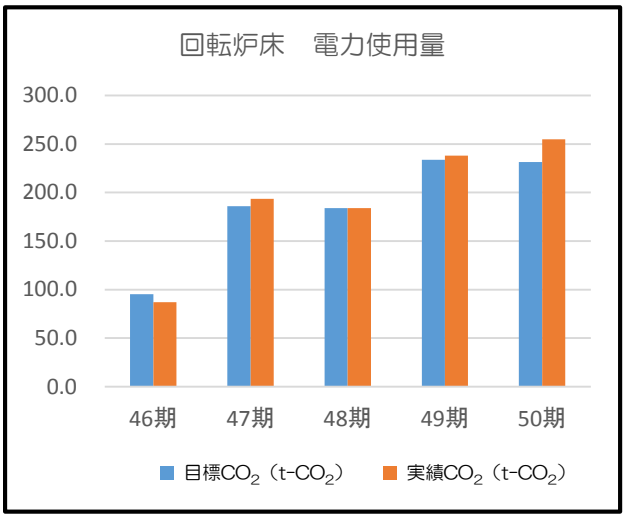

【取組み】
・毎回の使用量を記録して、月の終わりに進捗状況の見直しを行いました。
・運転管理方法の見直しを行い、より効率的な処理を心がけました。

【実績・評価】
・目標118.8t-$CO_2$に対して、実績178.3t-$CO_2$と目標を達成する事が出来ませんでした。
・搬入量増による施設の稼動回数が増えた事で、昨年より大幅な$CO_2$排出量が増加し、目標が未達となりました。

【今後】
・更なる効率化を追求し、稼動回数を削減する事で目標達成を目指します。

| | 単位 | 目標 | 実績 | $CO_2$削減率 | |
|---|---|---|---|---|---|
| $CO_2$排出量<br>ロータリーキルン炉<br>A重油 | t-$CO_2$ | 118.8 | 178.3 | 50%増加 | |
| | ℓ | 43,844 | 65,792 | | |

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価

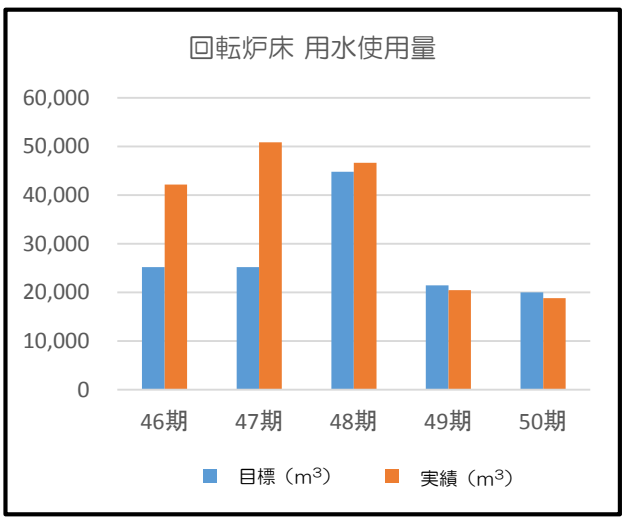



【取組み】
・毎日の使用量を記録して、月の終わりに進捗状況の見直しを行いました。
・不要な電力の消費を避ける為、不必要な設備の停止や各所のこまめな消灯を実施しました。
・電力の削減の為、老朽化した大型照明をＬＥＤ照明に更新しました。

【実績・評価】
・目標231.5t-$CO_2$に対して実績255.0t-$CO_2$と目標達成には至りませんでした。
・48期に新たに導入した集塵機の影響が大きく、他の設備の見直しや更新を図りましたが、目標は未達となってしまいました。

【今後】
・更に見直し出来る箇所を抽出・改善し目標達成を目指します。

| | 単位 | 目標 | 実績 | $CO_2$削減率 | |
|---|---|---|---|---|---|
| $CO_2$排出量<br>回転炉床<br>電力 | t-$CO_2$ | 231.5 | 255.0 | 10%増加 | |
| | kwh | 313,686 | 345,467 | | |




【取組み】
・毎日の使用量を記録して、月の終わりに進捗状況の見直しを行いました。

【実績・評価】
・目標20,000㎥に対して18,822㎥と目標を達成する事が出来ました。
・以前より用水を使用していた箇所の再利用水の使用を注意啓蒙し、目標を達成する事が出来ました。

【今後】
・場内全般の更なる節水への意識付けと再利用水の使用を推進し、目標達成を目指します。

| | 単位 | 目標 | 実績 | 削減率 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 回転炉床<br>用水 | ㎥ | 20,000 | 18,822 | 5.9%削減 | |

## メッセージ

50期は、回転炉床の$CO_2$排出量が49期より大幅に改善出来ましたが、目標達成までには届きませんでした。また、回転炉床の電力消費量の目標も、照明設備の更新などを試みましたが、取組みが遅く、今一歩、目標達成に届きませんでした。今期は、49期よりは改善した箇所もありましたが、要所での未達が残念な結果となりました。

原因は、49期も挙げましたが、取組みのマンネリ化があると思います。新たな取組みや考え方を熟考し、来期こそは全項目達成を目指して、環境事業部一丸となり頑張りたいと思います。

本社工場　飯田課長

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価

## （1）本社工場の取組み
## 2）環境コミュニケーションなど

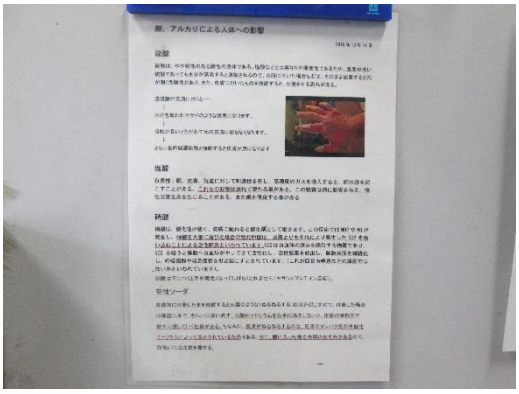
【取組み】
・施設の改善では、臭気対策の点から、有機汚泥受入設備の更新を実行しました。
・在庫管理の強化では、スケジュールを立てて、着実に実行しました。
・各環境測定の実施では、50期もダイオキシン測定など各環境測定をスケジュール通り実施しました。
・１年間無事故無災害では、指差し確認の徹底と啓発を継続的に実行しました。

【実績と評価】
・老朽化の激しい有機汚泥受入施設を更新した結果、臭気対策が進みました。
・廃棄物の飛散防止では、固化施設に飛散防止壁、食品残渣受入ピットにネットを設置して、鳥や風による廃棄物飛散防止対策をした結果、飛散物が少なくはなりましたが、まだ飛散が見られます。
・1年間無事故無災害では、毎日の危険予知活動の継続と、処理工程で使用する薬品の危険性を再教育と資料を掲示することで、1年間無事故無災害を達成することができました。
・搬入車両と歩行者との接触事故防止のため、ラインにて区分けをして事故防止対策をしました。
・施設整備では、段差がある土間をコンクリートでフラットにして、スペースを有効活用し、万が一廃棄物が漏洩したとしても土壌汚染が生じないように対策をしました。

【今後】
・設備の改善は、受入設備や処理工程での廃棄物飛散対策を重点的に取組んでいきます。
・在庫管理は、順調に改善出来ています。今後も他部署と情報の共有をすることで、よりスムーズな処理を進め適正管理に努めていきます。
・年々夏場の暑さが増していますので、熱中症対策にも力を入れて取組んでいきます。

受入ピット飛散防止ネットの様子

歩行者通路設置の様子


教育資料掲示の様子

### メッセージ

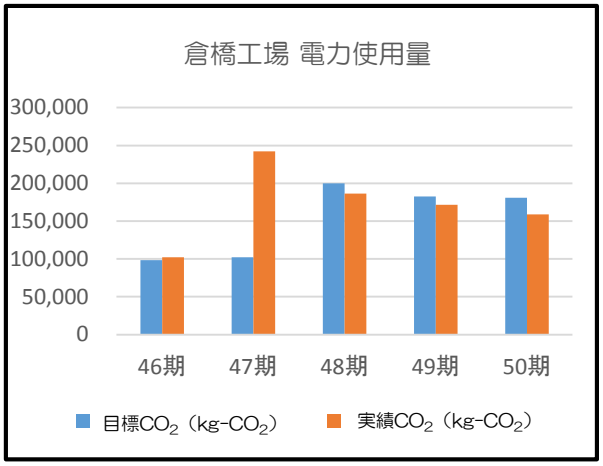
50期は、老朽の激しい汚泥受入ホッパーの更新による臭気対策をした結果、悪臭発生の抑制ができました。また、食品残渣受入ピットにネットをして、鳥や風による飛散防止に一定の効果がありました。しかし、破砕後の廃プラスチックによる飛散対策までは至りませんでしたので、51期は重点課題として取組んでいきます。

49期に発生した労災事故を教訓に、不安全な設備の更新を進めると同時に、日々使用する薬品による危険性を再教育する事で事故防止に努め、50期は無事故無災害を達成できました。今後も継続的に改善と教育を実施してゼロ災害に努めていきます。

本社工場　北川部長

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価

## （2）倉橋工場の取組み
### 1）$CO_2$の削減など

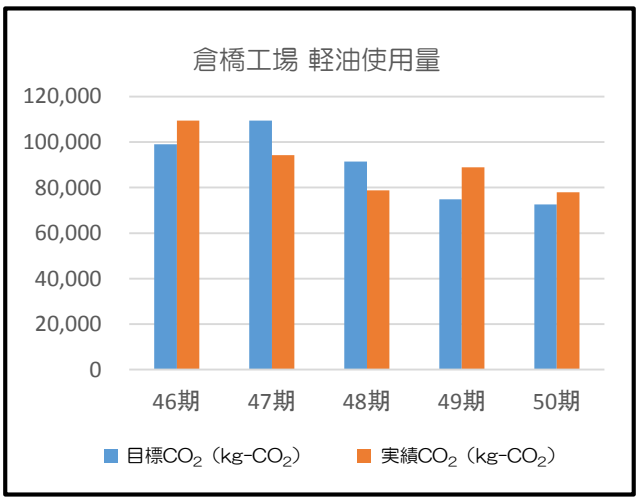



【取組み】
・各機器の電力使用量を把握したうえで、デマンドコントロールを意識した機器の運転管理に努めました。

【実績・評価】
・目標180,802kg-$CO_2$に対して、実績158,874kg-$CO_2$と目標を達成できました。
・三次発酵槽で使用していた大型ブロワー1台を小型のものに切替えたことでベース電力が下がり、$CO_2$排出量を大幅に削減することができました。

【今後】
・今の処理量を維持するためには、これ以上電気機器設備の簡素化は難しいので、地道にデマンドコントロールを徹底していきます。

| | 単位 | 目標 | 実績 | $CO_2$削減率 | |
|---|---|---|---|---|---|
| $CO_2$排出量 電力 | kg-$CO_2$ | 180,802 | 158,874 | 12%削減 | |
| | kwh | 244,989 | 215,276 | | |



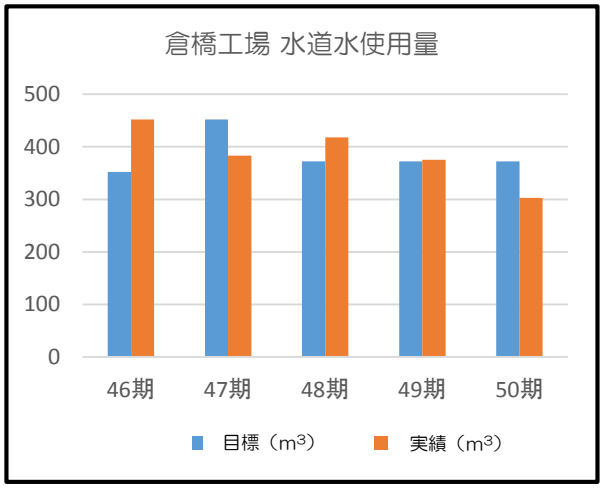

【取組み】
・発酵状況に応じて作業内容を随時見直し、重機の稼働時間の削減に努めました。
・製品在庫量と汚泥の発酵状況を見ながら、販売予測に従って作業を進めることを意識し、極力無駄な作業が発生しないように努めました。

【実績・評価】
・目標72,594kg-$CO_2$に対して、実績77,969kg-$CO_2$と増加しました。
・作業内容の見直しによりホイールローダーの年間稼働時間を約170時間削減しましたが、肥料の配達業務の増加などもあり、今期も目標を達成するまでには至りませんでした。
・肥料の配達業務による使用量は約1500ℓでした。

【今後】
・作業内容の工夫により冬場の発酵状況が改善できれば、大幅な使用量削減が見込まれるので、これからも創意工夫を続けていきます。

| | 単位 | 目標 | 実績 | $CO_2$削減率 | |
|---|---|---|---|---|---|
| $CO_2$排出量 軽油 | kg-$CO_2$ | 72,594 | 77,969 | 7.4%増加 | |
| | ℓ | 27,662 | 29,710 | | |

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価




【取組み】
・車両、重機の美化に努め、清掃一回当たりの作業負担の軽減および水使用量の削減に取組みました。

【実績・評価】
・目標372㎥に対して、303㎥と目標を達成できました。
・拭き掃除主体の洗車を徹底したことで、使用量を大幅に削減することができました。

【今後】
・引き続き洗車方法の工夫などで工場内の節水に努めますが、自社努力では限界に近付きつつあるので、今後は搬入業者様にも節水のご協力を呼びかけていきたいと思います。

| | 単位 | 目標 | 実績 | 削減率 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 水道水 | ㎥ | 372 | 303 | 18.5%削減 | |

低燃費車の導入

倉橋工場で出来た肥料

## メッセージ

今期を振り返ってみると、全体的には着実に進歩できているものの、重要な課題の一つである冬場の発酵状況の改善については、まだまだ満足のいく結果が得られませんでした。

今後も地道にPDCAサイクルを繰り返し、日々の観察を怠ることなく、状況に応じた対応策を迅速に講じられるよう、常に身構えておきたいと思います。

倉橋工場　石津工場長

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価

## （2）倉橋工場の取組み
### 2）環境コミュニケーションなど

【取組み】
・施設の改善として、トイレを汲取り式から水洗のものに更新しました。また、不要となった大型機材を解体、撤去しました。
・重機の軽油使用量の削減としては、2台の古いホイールローダーを燃費および作業性の良い新車1台と入れ替えました。
・1年間無事故無災害の取組みとしては、毎日の危険予知活動を継続しました。

【実績・評価】
・トイレを新設したことで、衛生面の改善が図られ、社員はもとよりお客様にもより快適な環境を提供できるようになりました。
・大型機材を撤去したことで、場内の整理整頓が進み、限られた場内スペースを有効活用できるようになりました。
・無事故無災害では、50期終了時点で無災害記録を15年で延べ5,474日更新しました。今後も危険予知活動で注意喚起を促し継続していきます。
・重機と車両の接触事故が2件発生したため、停車車両の周囲にカラーコーンを設置する対策を講じました。その後は、新たな事故は発生していません。

【今後】
・安全に配慮した施設の改善、作業工程の見直し、効率化を進めていきます。
・各社員が既に取得している資格を活用できるよう作業分担を工夫し、各自が技術向上に努め、部署内のモチベーションを高めていきたいと思います。
・無災害記録は51期も更新出来るよう、今後も強化して取組んでいきます。

無災害記録表

停車中の車両重機の周りにカラーコーンを設置

水洗トイレを新設

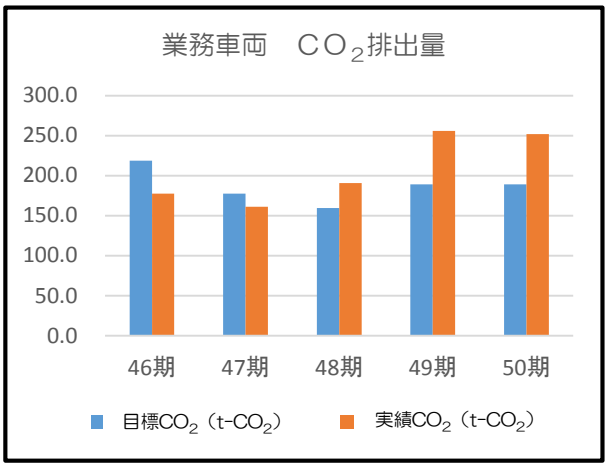
### メッセージ

50期は、トイレの新設や重機の新車導入などで施設および車両重機の整理・整頓・清掃への意識が高まり、作業環境の改善が進みました。しかしその一方で車両と重機の接触事故が発生し、安全対策の重要性を再認識することとなりました。
「安全第一」を肝に銘じ、そのうえで作業の効率化など生産性の向上に努めていきます。

倉橋工場　細川

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価

## （3）業務部の取組み
### 1）$CO_2$の削減など



新4ｔユニック車

【取組み】
・新たに4ｔ車２台を導入しました。
・毎月の軽油、ガソリンの使用量を集計し、把握しました。
・毎月の走行距離、特殊車両はアワメーターを集計し、適正期間にオイル交換、グリスアップを実施しました。

【実績と評価】
・目標189.1ｔ-$CO_2$に対し、252ｔ-$CO_2$と33%増加し、目標達成には至りませんでした。
・49期同様、特殊車両での収集、作業が増加し、走行距離、使用時間が増えた為、軽油の使用量が増加したのが要因です。また、50期は12月に大型車両が1台減車、ガソリン車両は年間を通して、広島市内での調査業務で走行距離及び使用量が減少した結果、49期に比べて、4ｔ-$CO_2$削減できました。しかし、夏場の熱中症対策として、エアコンの使用を推進した為、燃費は伸びませんでした。

【今後】
・50期同様、定期的なエンジンオイル交換を実施して燃費の向上に努めます。また、新車導入の際には、ハイブリット車両導入を検討したいと思います。
・特殊車両においては、アワメーターの管理を引き続き行い、メンテナンスを充実させていきたいと思います。

| | | 単位 | 目標 | 実績 | 削減率 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| $CO_2$排出量<br>業務車両燃費 | 年間総排出量 | t-$CO_2$ | 189.1 | 252 | 33%増加 | |
| | 10ｔ車両 | km/ℓ | 2.9 | 2.9 | 増減なし | ー |
| | 4ｔ車両 | km/ℓ | 5.65 | 5.4 | 4.4%増加 | × |
| | 2ｔ車両 | km/ℓ | 6.5 | 6.6 | 1.5%削減 | O |
| | ガソリン車両 | km/ℓ | 15.96 | 15.6 | 2.3%増加 | × |

### メッセージ

50期は、49期同様車両異常の早期発見、修繕期間の短縮、修繕費用削減に重点をおいて、取組みました。
特殊車両に関する知識も向上しており、修繕の提案もスムーズに行えるようになってきました。
51期は、その知識をもっと深め$CO_2$排出量削減にも反映させていき、燃費向上への意識へとつなげていきたいと思います。

業務部　水田係長

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価

## （3）業務部の取組み
### 2）環境コミュニケーションなど

【取組み】
・一年間無事故・無災害では、毎朝の業務ミーティング時に本日の危険ポイントの指差確認を行いました。
・愛車精神の向上と車両美化の意識づけの為、業務車両の塗装を行いました。
・飲酒運転禁止では、始業前のアルコールチェックを徹底しました。
・無事故無災害への取組みとして、衛生管理者の資格を2名取得しました。

【実績・評価】
・周囲確認不足による軽微な事故が3件。また、一時停止と目視確認を怠った為に車両同士の接触事故が1件発生しました。
・アルコールチェックでは50期も検出者0人でした。各自無事故・無違反の意識が高まっています。

【今後】
・計画的な駆動部のグリスアップ、走行距離管理によるエンジンオイル交換を行い、事故防止と共に修繕費削減の意識を高めて行きます。
・軽微な事故が無くならないため、毎朝の業務ミーティング時に業務部員間で危険ポイントの情報交換を行い、共有していきます。
・51期の車両美化は車内にも注力し、より一層気持ちよく業務にあたれるようにしていきます。
・年々熱中症のリスクが拡大しており、夏場の対策としてエアコンの使用推進だけでなく、作業時の服装の見直し等、作業環境が快適になるよう考えていきたいと思います。

グリスアップ状況

## 3）建設工事件数等

| 活動規模 | 単位 | 50期 |
|---|---|---|
| 工事の件数 | 件 | 10 |
| 売上高 | 千円 | 22,350 |

50期より、工事日報に現場での環境への取組みを記入する欄を設け、休憩時のこまめな節電等、日々環境負荷軽減について意識するようにしました。

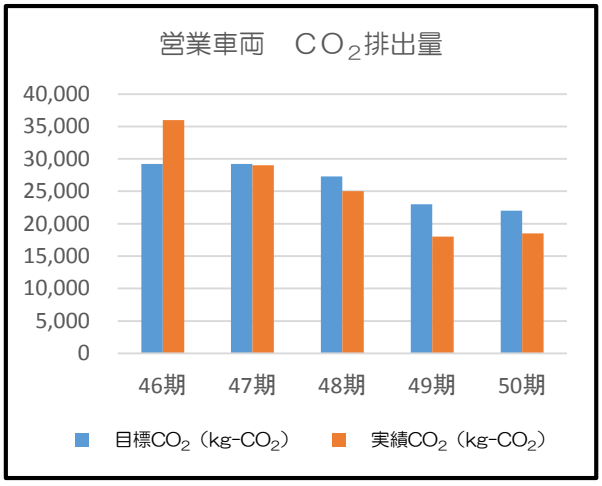
### メッセージ

車両美化については近年力を入れて取組んでおりますので、徐々に業務車両はきれいに保たれているのではないかと感じていますが、まだまだ良くなっていけると思いますので、全員が高い意識を持ち、特に指示が無くても各自気付いた事が出来るようにしたいと思います。
また、労災ゼロ、車両物損ゼロに向けて、51期も危険予知活動を充実させていきます。

業務部　藤元係長

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価

## （4）営業部の取組み
### 1）$CO_2$の削減など




【取組み】
・エコ運転の意識向上と、各自車両は自己責任のもと車両美化に努めました。

【実績・評価】
・目標22,000kg-$CO_2$に対して、18,492kg-$CO_2$と大幅削減できました。
・効率的な営業活動を心掛けた結果、$CO_2$排出量の削減につながりました。
・エコ運転は、各個人が取組み意識を持つことで部署全体の底上げを図りました。
・50期末から1台新車の入替えをしました。

【今後】
・部署全体のエコ運転意識の向上と、各自の車両の清掃美化に努めて自己責任の意識の元に、マナーある運転や営業活動の効率化から$CO_2$排出量を削減していきます。

| $CO_2$排出量 ガソリン | 単位 | 目標 | 実績 | $CO_2$削減率 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | kg-$CO_2$ | 22,000 | 18,492 | 15.9%削減 | |
| | ℓ | 9,476 | 7,965 | | |

全営業車のドライブレコーダ設置

新車の入替え

## メッセージ

　営業活動を踏まえてのルートの効率化、アイドリングストップ等、エコ運転の実施を行いました。50期途中に営業全車両にドライブレコーダーを設置し、危険運転の抑制と車間距離にゆとりをもった安全な運転を各自心掛けるようになりました。
　営業車両の5台中3台が産業廃棄物収集運搬車両として使用しているので負荷がかかるかもしれませんが、各自愛車精神のもと、人と車にやさしい運転を行います。

営業部　福原係長

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価

## （4）営業部の取組み
### 2）環境コミュニケーションなど

【取組み】
・社員、家族とのつながりでは、１２月と６月に社内報を発行し社員の各家庭に郵送しました。
・ステークホルダーとのつながりの拡充では、１０月にひろしま地球環境フォーラム主催のクリーン＆サンフレッチェ参加に参加しました。
・毎月第一金曜日に、周辺道路清掃奉仕活動を実施しました。

【実績・評価】
・社内報は、忘年会や家族会、環境力道場での取組み、社員へのアンケートなどで会社の取組みの様子が家族にも伝わるよう工夫しました。
・クリーン＆サンフレッチェでは、エディオンスタジアム周辺の道路を清掃した後に、参加者でアビスパ福岡戦を観戦しました。
・周辺道路清掃では、50期も継続して行いました。一年間で可燃ごみ60ｋｇ金属ごみ10ｋｇを集めました。少しずつではありますが近隣の方々にも認知されつつあるように思います。

【今後】
・今後も年２回社内報「春夏秋冬」を発行し、会社全体での取組や、社員の表情などを分かりやすく発信したいと思います。
・ステークホルダーとのコミュニケーションを目的とした地域イベントに年１～２回積極参加します。
・今後も月に一度会社周辺道路を清掃し、地域環境美化に貢献していきたいと思います。

社内報「春夏秋冬」

クリーン＆サンフレッチェでの清掃活動

清掃活動の様子

### メッセージ

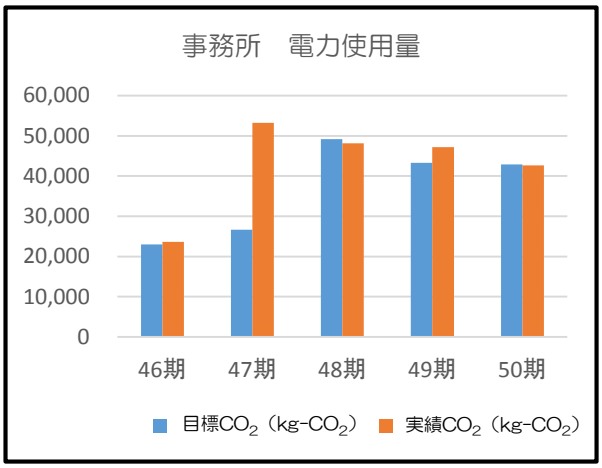
年２回発行の社内報について、読者からのアンケートで多くの感想や要望をいただき励みになりました。今後もどのような情報を発信すれば喜んで頂けるかを常に考えながら取組んでいきます。

月１回の周辺道路清掃では、挨拶をされる機会も増えてきました。押し付けがましくならないよう、奉仕の心で続けていきたいと思います。

営業部　橋本次長

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価

## （5）事務所の取組み
### 1）$CO_2$の削減など



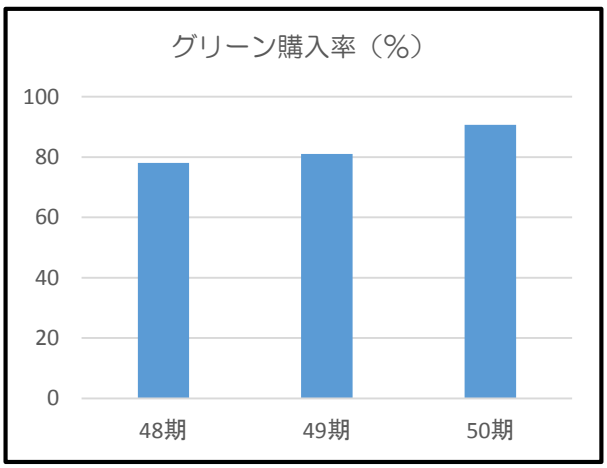

【取組み】
・事務所内の窓に網戸を追加したり、不使用時の照明の消灯やパソコンの電源OFF等、省エネとこまめな節電に努めました。

【実績・評価】
・目標42,900kg-$CO_2$に対して、 42,676kg-$CO_2$と目標を達成することが出来ました。
その内、電灯使用量は49期は51,548kWhに対して、50期は44,374kWhと削減出来ましたが、エアコン使用量は、 49期は12,398kWhに対して、50期は13,452kWhと増加しました。
　夏場の気温上昇で、エアコンの使用時間増加と設定温度を下げたことが原因と考えられます。

【今後】
・引き続きこまめな節電を行い、 エアコンの定期的なフィルター掃除や、断熱性を向上させる為、窓に断熱シートを貼り付ける等も検討したいと思います。

| | 単位 | 目標 | 実績 | $CO_2$削減率 | |
|---|---|---|---|---|---|
| $CO_2$排出量<br>事務所電力 | kg-$CO_2$ | 42,900 | 42,676 | 0.5%削減 | |
| | kwh | 58,130 | 57,826 | | |

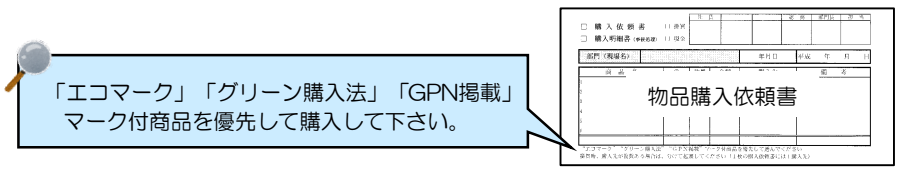
### 2）グリーン購入




【取組み】
・環境対応商品を優先して購入してもらうために、啓発活動を行い社員への意識付けを行いました。

【実績・評価】
・49期は81.02%に対して、50期は90.76%と購入率が向上しました。
・物品購入依頼書への注意書きや、掲示板に掲示して意識付けを行い、オフィス用品の通販カタログを利用して環境対応商品の購入を心がけたことで、購入率の向上につながりました。
・事務所で使用するコピー用紙は、100%再生紙の使用を徹底しています。

【今後】
・除外品については、適合品がないかカタログ以外でも調査と周知を行い、購入率向上に繋げたいと思います。




## メッセージ

　50期は事務所のエアコンと電灯の電力使用量が、ワンフロア化する前の48期より削減することが出来ました。
　事務所電力は、繁忙期や気温に左右されるのですが、引き続きこまめな節電と、他にもいい削減方法がないかを模索し、ワンフロア化の効果が継続して得られるよう、削減に努めます。

総務部　舛本

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価

## （5）事務所の取組み
### 3）環境コミュニケーションなど

【取組み】
・社員のつながりでは、49期に引き続き『永年勤続者の表彰』『誕生月にあたる社員のお祝い』をし、誕生日には一斉メール配信を行いました。
・家族とのつながりでは、50期も社員の家族を招いて『家族会』を企画、実施を継続して行いました。
・情報の共有化では、朝礼・掲示の他に、随時社内事項をメールにて配信しました。
・積極的な情報公開では、ホームページ内の社員ブログを充実させ、イベント等も掲載しました。
・接遇の向上では、受付でのより良い接遇対応やレベルアップについて部内で自主研修を行いました。

家族会【いちご狩り】　５９名参加

【実績・評価】
・第3回目となる『家族会』は、年々参加人数も増加し、「会社では見られない社員の違う姿が見れて楽しかった」「家族で一緒に楽しめるイベントで楽しかった。」など好評を頂き、満足いただけるものになりました。
・接遇の向上では、49期までに3回講師をお招きして研修を行ってきましたが、今期は部内にて接遇に対する意識を共有し、具体的な取組みを決めて実行するという自主研修を行いました。接遇の基本である「笑顔」「挨拶」とともに、仕事に対する知識を深めてお客様に対応していくことにより、接遇の質をあげるよう取組みました。自主研修後は、総務部全員がより意識的になり、お客様に満足して頂く接遇に繋がっていると思います。 今後も継続していき、事務所全体・会社全体の雰囲気を明るくするように努力したいと思います。
・全体朝礼の場で『永年勤続表彰』を行い、４名のお祝いをしました。社員の働く意欲・やりがいにつながる取組みができました。

永年勤続表彰の様子

朝礼でのお誕生日祝いの様子

【今後】
・『家族会』『誕生日のお祝い』『永年勤続者の表彰』は51期も継続して行い、社員・家族とのつながりを大切にするとともに、働きやすくて明るい職場づくりに貢献していきたいと思います。内部コミュニケーションの充実を図ることで、各部署間の絆を深め、連携の取れた企業の一役を担っていきたいと思います。

### メッセージ

　総務部は、『家族会』『誕生日のお祝い』『永年勤続者の表彰』など社内行事を通して、社員の働く意欲・やりがいを持てるように継続して取組んでいきたいと思います。
　ステークホルダーの皆様に安心して仕事を任せて頂くためにも、お客様の気持ちに寄り添った接遇に取組み、信頼して頂ける総務部を目指します。

総務部　金子主任

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価

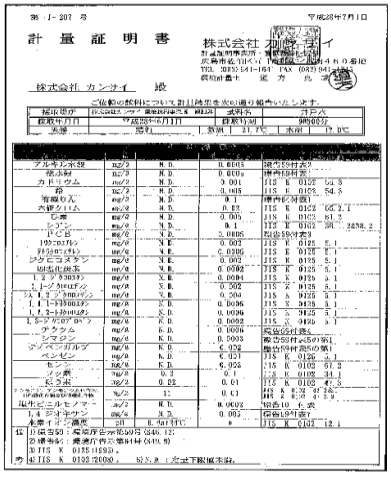
## （6）環境計量室の取組み
### 1）環境分析

【取組み】
・本社屋周辺の土壌及び地下水が汚染されていないか調査するため、年3回、観測井戸からサンプリングを行い分析を行いました。
・本社屋合併浄化槽水質調査（年4回）、と浄化槽機能定期検査（年1回）を実施しました。
・本社工場内の排水処理は自主基準を設け有害項目も含めて38項目を（年4回）分析を行いました。
・本社工場から最終処分場へ搬出される汚泥や燃え殻に環境を汚染する可能性がある有害物質がないか毎月分析を実施しました。
・太陽光発電を利用した省エネルギーで稼動可能な浄化槽システムのデータ収集を行いました。
・分析技術向上の為、内部精度管理と日本環境測定分析協会及び環境省主催の外部精度管理に参加しました。

【実績・評価】
・工場、本社屋共に有害物質の検出はありませんでした。
・部署内の教育と内部、外部精度管理を通して社員全体のレベルアップを行いました。
・環境計量室内の薬品管理の為、劇毒物の在庫管理を毎月行いました。その他の薬品も、年1回10月に在庫確認を行いました。

【今後】
・部署内で教え合い共に育つ〔共育〕という言葉を目標に、全員の分析技術向上に取り組んでいきます。
・分析機器や分析方法についての講習会、内部、外部精度管理などに積極的に参加していきます。

観測井戸


計量証明書

分析業務

サンプリングの様子

## メッセージ

　環境計量室では、本社工場から搬出される燃えがら・汚泥の分析、本社工場に搬出入される廃棄物に有害物質が含まれていないか、危険物など混入していないかなどの搬入前検査を行っています。その他、本社の排水分析、倉橋工場で製造された肥料の品質管理分析も行っています。
　内部、外部精度管理、分析の講習会などに参加し部署全体の技術力向上を目指すことで、より安心かつ安全な品質管理を行っていきたいと思います。

環境計量室　古田

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価

## （6）環境計量室の取組み
## 2）環境測定の実施

| 場　　所 | 項目 | 単位 | 結果 | 規制値 | 測定日 |
|---|---|---|---|---|---|
| 本社工場（回転炉床式焼却炉） | ばいじん | g/㎥N | 0.005 | 0.25 | 2016/10/17 |
| 本社工場（回転炉床式焼却炉） | 塩化水素 | mg/㎥ | 9.8 | 700 | 2016/10/17 |
| 本社工場（回転炉床式焼却炉） | 硫黄酸化物 | ㎥/h | 0.29 | 6.05 | 2016/10/17 |
| 本社工場（回転炉床式焼却炉） | 窒素酸化物 | ppm | 70 | - | 2016/10/17 |
| 本社工場（回転炉床式焼却炉） | ダイオキシン | ng-TEQ/㎥ | 0.14 | 10 | 2016/10/17 |
| 本社工場（ロータリーキルン炉） | ばいじん | g/㎥N | 0.048 | 0.25 | 2016/10/18 |
| 本社工場（ロータリーキルン炉） | 塩化水素 | mg/㎥ | 12 | 700 | 2016/10/18 |
| 本社工場（ロータリーキルン炉） | 硫黄酸化物 | ㎥/h | 0.57 | 5.3 | 2016/10/18 |
| 本社工場（ロータリーキルン炉） | 窒素酸化物 | ppm | 130 | - | 2016/10/18 |
| 本社工場（ロータリーキルン炉） | ダイオキシン | ng-TEQ/㎥ | 0.25 | 10 | 2016/10/18 |
| 本社工場（環境放流水） | BOD | mg/ℓ | 7.1 | | 2017/6/22 |
| 本社工場（環境放流水） | COD | mg/ℓ | 15 | | 2017/6/22 |
| 本社工場（環境放流水） | SS | mg/ℓ | 7 | | 2017/6/22 |

*窒素酸化物の規制値は施設が小規模なため規制はかかっておりません。
*環境放流水は、外部への放流をしていないため規制はかかっておりません。
（測定機関）
*本社工場（回転炉床式焼却炉）　：東和環境科学㈱
*本社工場（ロータリーキルン炉）：東和環境科学㈱
*本社（環境放流水）：㈱カンサイ

**広島市行政測定結果**

| 場　　所 | 項目 | 単位 | 結果 | 規制値 |
|---|---|---|---|---|
| 本社工場（回転炉床式焼却炉） | ばいじん | g/㎥N | 0.016 | 0.25 |
| 本社工場（回転炉床式焼却炉） | 塩化水素 | mg/㎥ | 24 | 700 |
| 本社工場（回転炉床式焼却炉） | 硫黄酸化物 | ㎥/h | 0.28 | 6.05 |
| 本社工場（回転炉床式焼却炉） | 窒素酸化物 | ppm | 80 | - |
| 本社工場（回転炉床式焼却炉） | ダイオキシン | ng-TEQ/㎥ | 0.14 | 10 |

【取組み】
・本社工場では、ダイオキシン測定・排ガス測定など各環境測定を外部機関に依頼し実施をしました。
・50期は、広島市行政測定を実施しました。測定結果は上記一覧の通りです。

【実績と評価】
・各測定外部機関による各測定結果も、上記一覧表通り良い結果でした。

【今後】
・今後も各測定ともに外部機関に依頼し実施をしていきます。

行政測定実施の様子

### メッセージ

　大気汚染防止法及びダイオキシン類特別措置法の規制対象施設において、ばいじん等及びダイオキシン類の測定を実施しました。上記結果一覧表の通り、すべての規制項目において規制値以下でした。また、広島市による行政測定結果も同様に規制値以下でした。
　今後も引き続き、施設の適正管理、運営を環境側面から支援していきたいと思います。

環境計量士　道方室長

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価

## （8）エコアクション21事務局の取組み

### 1）社員研修旅行

**【富士登山】**
・7月27日～29日の日程で、希望参加者15名にて富士登山社員研修に行きました。

【目的・意義】
・会社創立50周年の記念行事として、会社の一層のステップアップと社員一同の新しい挑戦、団結力を目的に登山しました。

【感想】
・参加者15名全員が登山未経験者でしたが、無事に全員が登頂できました。雲海から昇るご来光は忘れられない景色のひとつです。

富士山頂にて

**【道後温泉】**
・8月4日～5日の日程で、19名にてアサヒビール工場見学と松山道後温泉に研修旅行に行きました。

【目的・意義】
・部署の垣根を越えた社員同士の懇親を深め、仕事への活力とコミュニケーションの向上を図ることを目的としました。

【感想】
・今回は5年ぶりの社員研修旅行ということもあり、仕事では見られない一面も見ることができ、懇親が深まりました。今後も全社員参加できる社員研修旅行が企画できたらと思います。

来島海峡にて

### 2）環境力道場

【環境力道場とは？】
・環境力道場はその名の通り、環境力を身につけることによりカンサイ独自のビジネス展開と持続可能な社会づくりへの貢献を目指し、皆で道場のごとく意見をぶつけ合い双方の理解を深め各自の能力向上を図る社員研修です。
・49期～50期（道場第3期生）からは、二ヶ月に１回、外部講師（環境文明研究所、加藤三郎先生、藤村コノ卫先生）を招いて実施しています。

【活動内容】
・廃棄物業界の最新情報や地球温暖化問題等を幅広く学び、今後の事業展開を模索しました。
・3期となる今回は、部署間の連携を深めより実働に活かせるように、ディスカッションに多くの時間を割きました。また、全社員の共通認識のために、カンサイフィロソフィー（社員手帳）を作成、発行しました。

【今後】
・環境力道場で議論した事案を、経営者と再度協議を重ねて実行に移していきます。
・51期には、道場の取組みをより浸透させるために部署単位で行い、全社員参加型で開催します。

各部署の発表の様子

カンサイ版『フィロソフィー』議論の様子

## （8）エコアクション21事務局の取組み

### 3）経営企画会議

【取組み】
・隔月で、経営者と各部門長との間で経営企画会議を開催しました。環境力道場での議論の報告や社員発信の改善策を経営者とすり合わせを行いました。

【実績・評価】
・この会議開催により、経営者と全社員で共通認識の元、仕事が進められるようになりました。
　具体的には、業務車両の配車や日報の取扱いを見直し、ムリ・ムダ・ムラを排除したことで仕事が円滑になり、残業が削減できました。

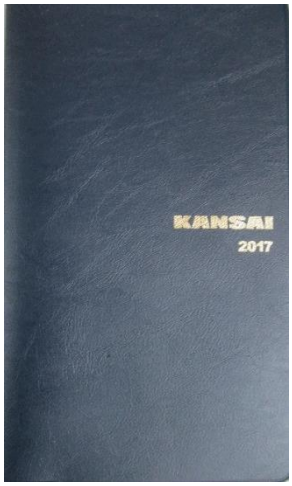
【今後】
・今後も継続して、経営者と双方向の意見交換をすることで仕事のムリ・ムダ・ムラを排除していきます。
・環境力道場の後には、経営企画会議を開催して問題点のスピーディな解決につなげていきます。

経営企画会議の様子

### 4）カンサイ理念手帳（フィロソフィー）

【カンサイ理念手帳（フィロソフィー）とは】
・フィロソフィーとは、日本語で『哲学』のことです。
私たちカンサイは、「人と人との調和 ・人と自然との調和を大切に」して、全従業員の物心両面の幸せを追求する企業です。
　今カンサイの社員として求められていることを15項目挙げています。ここで挙げた項目はただの標語ではなく、毎日の仕事の中で、良い事があっても悪い事があっても、全社員の判断指針になることを念頭に、社員自らが考え議論を重ね作りあげました。

【今後】
　この理念手帳はこれで完成ではく、日々の仕事を通じて得た新しい気付きとともに、今後の目標に向かって社員自らが修正・追加を重ね進化させていきます。




カンサイ理念手帳（フィロソフィー）

### メッセージ

　この理念手帳は、カンサイ50周年の節目として環境力道場の一期生から三期生のメンバーで作りました。「社会からみた環境に携わるカンサイという企業」、「地域からみた廃棄物処理業者であるカンサイ」を客観的に見つめ直すとともに、カンサイが向かっていく方向や目指す会社像を、社員一人ひとりが正しく理解していかなくてはなりません。
　そのための手助けとして、社員の皆さんにこの理念手帳を活用して頂き、日々何となく仕事をするのではなく、自らを見つめ直し、新しい気付きに繋げるための手引書になる事を願っています。

編集担当
金子主任　　水田係長

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価

## （8）エコアクション21事務局の取組み
### 5）情報公開

【取組み】
・情報公開のひとつとして、排出事業者の方はもとより、地域住民の方々に本社工場の施設見学を実施しました。

【実績・評価】
・2008年より地域住民の方々と広島市環境局の方に、本社工場を見学頂き意見交換を継続しています。
今期のアンケートの回答では、
「近況を理解できて非常に良かった。」
「地球環境への配慮、取組みをお願いします。」
「今後も水質汚濁防止等に力を入れてください。」
「廃棄物業界の先進的な、活躍を期待しています。」
などのご意見を頂きました。

【今後】
・今後も排出事業者や地域住民等の、工場見学を積極的に受入れ、また、ＨＰの更新や環境活動レポートなどで、ステークホルダーの皆様に情報公開を積極的に行っていきます。

住民の方々との意見交換の様子

本社工場見学の様子

### 6）環境　人づくり企業大賞

・環境省が主催する「環境　人づくり企業大賞2016」において、中小企業区分にて奨励賞を受賞しました。

【環境 人づくり企業大賞】
・地球環境と調和した持続可能な社会を構築するため、企業が経営の中に積極的に環境の視点を取入れ、その担い手となる人材育成の取組みを表彰するもので、当社の取組みが高く評価されました。

【審査委員会からの講評】
・経営者の環境保全への想い強いコミットメントに基づいて実施される「環境力道場」の取組みは、社員の環境意識向上を狙った全社的な取組みとして高く評価できる。外部講師を招いて環境リテラシーを身につける教育活動を実施し、事業活動に結びつけるためのディスカッションを行っていることも実践的な教育方法である。社員研修としての効果や事業における経済効果が出ており、本業と密接に関連した環境力を身につける「道場」としての成果ができている。

【今後】
・今後も「環境力道場」を継続し、環境経営ビジョンを部署内で落とし込み、部署間の連携やステークホルダーの方へと広げ活動をより深化していきます。

表彰式の様子

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価

## 環境負荷の各部署全体像

### 本社工場

**資　源**

| | | |
|---|---|---|
| A重油 | （kℓ） | 137 |
| 電力 | （kWh） | 520,829 |
| 軽油 | （ℓ） | 24,601 |

**産業廃棄物（t）**

| | |
|---|---|
| 汚泥 | 5,283 |
| 廃プラ | 1,695 |
| 感染性 | 539 |
| 動植物性残渣 | 483 |
| 廃アルカリ | 170 |
| 金属 | 115 |
| 有害汚泥 | 257 |
| その他 | 959 |

**化学物質**

| | | |
|---|---|---|
| セメント | （t） | 1,022 |
| 苛性ソーダ | （ℓ） | 31,600 |
| PAC | （kℓ） | 2 |

**水投入量（$m^3$）**

| | |
|---|---|
| 用水 | 18,822 |

$CO_2$排出量
821t-$co_2$

**産業廃棄物排出量（t）**

最終処分場

| | |
|---|---|
| 汚泥 | 3,734 |
| 燃え殻 | 397 |

再資源化

| | |
|---|---|
| 堆肥 | 219 |
| 金属屑 | 235 |
| 木くず | 74 |
| 紙くず | 63 |
| 廃プラ | 157 |
| 汚泥 | 77 |
| その他 | 116 |

排水
*全量再利用

*本社工場は、リサイクルが困難な廃棄物を積極的に受入れてます。従ってリサイクル率が9.2%と低いのですが、前期より1.1%向上しています。今後もリサイクル困難廃棄物を分別してリサイクル率向上に努めます。

### 業務部

**資　源**

| | | |
|---|---|---|
| 軽油 | （ℓ） | 92,586 |
| ガソリン | （ℓ） | 3,876 |

収集運搬量（t）　6,197

$CO_2$排出量
252t-$co_2$

### 営業部

**資　源**

| | | |
|---|---|---|
| ガソリン | （ℓ） | 7,965 |

$CO_2$排出量
18t-$co_2$

# 6. 各部署50期の取組みと実績・評価

## 環境負荷の各部署全体像

資　源
電力（kWh）　215,276
軽油（ℓ）　29,710

廃棄物受入量（t）
4,359

### 倉橋工場

$CO_2$排出量
237t-$CO_2$

肥料製造（t）　681

資　源
電力(本社事務所)
（kWh）　57,826
電力(休憩所)
（kWh）　24,467
水道水（ℓ）　1,181
LPG　（kg）　332

### 本社事務所・休憩所

$CO_2$排出量
61t-$CO_2$

廃棄物（kg）　930
*全量リサイクル

## カンサイ全体の環境負荷

$CO_2$排出量
1,390t-$CO_2$

# 7. 51期の環境活動計画

**※51期は、環境力道場を部署単位で開催して、全社員のレベルアップと共通認識を図ることに重点を置いた社員教育に取組みます。**

| | 目標 | 活動内容 | 実施時期 | 該当部門 |
|---|---|---|---|---|
| 重点取組み | 環境力道場での社員教育 | 基本的な環境問題の講義<br>部署内の課題を抽出し、解決する<br>部署ごとに3ヶ年計画を策定する | 通年 | 全社員 |

| | 目標 | 活動内容 | 実施時期 | 該当部門 |
|---|---|---|---|---|
| 1.環境 | （1）回転炉床・ロータリーキルンの重油使用量の削減 | 管理体制の強化、随時改善する<br>プラント運転管理者の技術の向上 | 通年 | 本社工場 |
| | （2）業務車両のガソリン・軽油使用量の削減 | ドライブレコーダーの運用<br>および管理体制の強化 | 通年 | 業務部 |
| | （3）営業車両のガソリン使用量の削減 | エコ運転の教育・徹底 | 通年 | 営業部 |
| | （4）重機の軽油使用量の削減 | 点検マニュアルの改善<br>および管理体制の強化 | 通年 | 倉橋工場 |
| | （5）事務所電力使用量の削減 | こまめな節電 | 通年 | 環境計量室 |
| | （6）ムリ・ムダ・ムラの排除 | 仕事内容の精査と見直し | 通年 | 全社員 |
| | （7）場内全域の環境対策 | 受入れ設備の改良・飛散防止対策 | 通年 | 本社工場 |
| | （8）施設の改善 | 保管場所の整備<br>老朽設備の更新 | 通年 | 本社工場<br>倉橋工場 |
| | （9）在庫管理の強化 | 処理スケジュール作成による管理と実施 | 通年 | 本社工場<br>倉橋工場 |
| | （10）緊急事態（自然災害）への対応 | 自然災害へのリスク調査（中期計画） | 通年 | 本社工場<br>倉橋工場 |
| | （11）各環境測定の実施 | ダイオキシン測定ほか | 通年 | 本社工場 |
| | （12）燃え殻・汚泥・・肥料・排水維持管理 | 分析及び各部署への伝達 | 通年 | 環境計量室 |
| | （13）環境活動レポートの作成 | １１月初旬に50期版を発行 | 9～10月 | ＥＡ21推進メンバー |
| 2.コミュニケーション | （1）ステークホルダーからの要望への対応 | お客様の要望・意見・提案を回覧と共有 | 通年 | 全部署 |
| | （2）情報の共有化 | 新システム導入によるスケジュール管理 | 通年 | 営業部 |
| | （3）社員とのつながり | 毎月誕生月の人をお祝する<br>永年勤続者の表彰 | 通年 | 総務部 |
| | （4）家族とのつながり | 社内報の内容を充実させる | 年4回 | 営業部 |
| | | 家族会の企画・実施 | 6月 | 総務部 |
| | （5）ステークホルダーとのつながりの拡充 | 地域清掃活動への参加 | 通年 | 営業部 |
| | （6）仕事の共有と効率化 | 経営企画会議の開催 | 年6回 | 各部門長 |
| | （7）見学者の受け入れ拡充 | 部署間での事前協議 | 通年 | 営業部 |
| | （8）積極的な情報公開 | ホームページの充実 | 通年 | 総務部 |
| 3.教育 | （1）自社活動内容の理解度向上 | 年1回全体教育の実施 | 5月 | EA21事務局 |
| | （2）資格取得へのチャレンジ | リストアップと計画取得 | 通年 | 全部署 |
| | （3）知識の向上 | 随時各講習会、講義の参加 | 通年 | 全部署 |
| 4.安全衛生 | （1）1年間無事故無災害 | 指差し確認の徹底と啓発 | 通年 | 本社工場<br>倉橋工場<br>業務部 |
| | （2）交通事故の防止 | 事故事例の再検証 | 通年 | 業務部 |
| | （3）飲酒運転禁止 | アルコールチェッカーの運用<br>（基準値0mg） | 通年 | 業務部 |
| | （4）5S活動の推進<br>（整理・整頓・清掃・清潔・躾） | 毎週金曜日の清掃活動 | 通年 | 全部署 |
| | （5）安全衛生協議 | 月次報告会内にて設置 | 月/1回 | EA21事務局 |

作成日　2017/9/28

# 8. 第三者意見

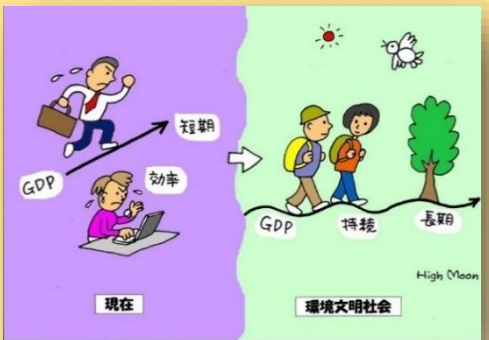
現代は、まれにみる激動の時代です。全てが目まぐるしく変わり、そのたびに事業や人々の生活は大きな影響をうけます。その影響はよい影響もありますが、つらく苦しい変化もあります。

産業廃棄物処理業界にとっても事情は同じです。従来は受託した廃棄物を安全かつ適正に処理すれば完結していた仕事も、今日では可能な限り資源として再生したり循環させることが求められます。さらに、地球温暖化対策のため、昨年発効した「パリ協定」に即して、$CO_2$などの温室効果ガス排出の低減が求められています。実際、従来「全国産業廃棄物連合会（全産廃連）」と呼ばれてきた団体名も、遠からず、「全国産業資源循環連合会」と改称される見込みと聞いています。

カンサイにおいても、上述の社会の激変に対し、社長をはじめ社員一同が一丸となって取組んでおり、そのことは社員研修の場である「環境力道場」での議論やこのレポートにもしっかり述べられています。

レポートでは、全社及び各部署で取組目標を掲げ、それに対する実績と評価、評価に基づく今後の取組について真摯に記述している点、特に$CO_2$排出量についてはデータを整備することで発生源が明確になり今後の削減に向けどこを改善していけばいいかがわかるようにしている点は、この業界のこの規模の企業としては先駆的な取組と言えると思います。とはいえ、削減は容易ではなく十分な成果はまだ出ていません。しかし、常にそれを意識していくことは今後必ず役に立つと考えられます。

一方、カンサイが「環境創造総合企業」を目指すことを公表しています。これは大変重要なコンセプトであり、社会が日々変化している中で、カンサイも、従来の産廃処理業の延長ではなく、社会が必要とする新しい仕事にも挑戦しなければ、「環境創造総合企業」にはなり得ません。そのためには、カンサイが取組むべき「新しい仕事」とは何かを日々厳しく考え、試行し、必要なスキルや施設を整え、やりがいと責任をもってやり抜く覚悟が必要です。環境力道場での議論や今回のレポートなどから、その一端が見て取れますが、さらなる取組をおおいに期待したいものです。



高月紘先生の作品集より

2017年10月
環境文明研究所　加藤三郎、藤村コノエ

# 9. 環境関連法規・訴訟等の有無

## （1）当社に適用となる主な環境関連法規制等

| 法律・条例等 | 要項 | 主な内容 |
|---|---|---|
| 環境基本法 | 第8条 | ・事業活動に伴い生じる公害を防止する<br>・事業活動に係る製品が廃棄物となった場合の適正処理の措置<br>・事業活動に係る製品が使用、廃棄されることによる環境負荷の低減と再生資源の利用<br>・国または地方公共団体の環境保全に関する施策への協力 |
| 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 | 第12条 | ・廃棄物の排出を抑制し、適正な分別、保管、収集、運搬、再生、処分等の処理を行う<br>・生活環境を清潔にすることにより、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る<br>・マニフェストの交付、管理の遵守 |
| 水質汚濁防止法及び広島県公害防止条例 | 第5条 | ・工場及び事業場から排出される水の排出及び浸透を規制し、生活排水対策を実施する<br>・水質の汚濁の防止を図り、国民の健康を保護するとともに生活環境を保全する<br>・健康被害が生じた場合の責任を明確にし、被害者の保護を図る |
| 騒音規制法 | 第5条 | ・騒音についての必要な規制を行なうとともに、許容限度を定めることにより、生活環境を保全し、国民の健康の保護に資する |
| 振動規制法 | 第5条 | ・振動について必要な規制を行うとともに、道路交通振動に係る要請の措置を定めること等により、生活環境を保全し、国民の健康の保護に資する |
| 悪臭防止法 | 第4条 | ・悪臭について必要な規制を行い、その他悪臭防止対策を推進することにより、生活環境を保全し、国民の健康の保護に資する |
| 大気汚染防止法 | 第2条 | ・ばい煙、揮発性有機化合物及び粉じんの排出等を規制し、有害大気汚染物質対策の実施を推進する<br>・自動車排出ガスに係る許容限度を定めること等により国民の健康を保護するとともに生活環境を保全する<br>・健康被害が生じた場合の損害賠償の責任について定めることにより、被害者の保護を図る |
| ダイオキシン類対策特別措置法 | 第2条 | ダイオキシン類による環境の汚染防止及びその除去等をするため基準を定め、必要な規制、汚染土壌に係る措置等を定め、国民の健康の保護を図る |
| 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 | 第2条 | ・事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進し、環境の保全上の支障を未然に防止する |
| 消防法 | 第17・21条 | ・国民の生命、身体及び財産を火災から保護するほか、災害等による傷病者の搬送を適切に行うことで秩序を保持し、社会公共の福祉の増進に資する |
| 肥料取締法 | 第4条 | ・肥料の品質を保全し、その公正な取引と安全な施用を確保するため、規格及び施用基準の公定、登録、検査等を行う。農業生産力の維持増進に寄与する |
| 建設業法 | 第3条 | ・建設業を営む者の資質の向上、建設工事の請負契約の適正化等を図ることによって、建設工事の適正な施工を確保し、発注者を保護するとともに、建設業の健全な発達を促進する |
| 建設リサイクル法 | | ・特定の建設資材について、その分別解体等及び再資源化等を促進する<br>・登録制度を実施し再生資源の十分な利用及び廃棄物の減量等を図る |
| 道路運送車両法 | | ・所有権についての公証等を行い、並びに安全性の確保及び公害の防止その他の環境の保全並びに整備についての技術の向上を図る |
| 毒物及び劇物取締法 | 第4条 | ・毒物及び劇物について、保健衛生上の見地から必要な取締を行う |
| 計量法 | 第10条 | ・計量の基準を定め、適正な計量の実施を確保 |
| 高圧ガス保安法 | 第9条 | ・高圧ガスの製造、貯蔵、販売、移動その他の取扱い及び消費並びに容器の製造及び取扱いを規制する |
| 放射線障害防止法 | | ・放射性同位元素の使用、販売、賃貸、廃棄その他の取扱い、発生装置の使用及び放射性汚染物の廃棄その他の取扱いを規制し、これらによる放射線障害を防止する |
| 労働安全衛生法 | | ・労働災害の防止のための危害防止基準の確立<br>・責任体制の明確化及び自主的活動の促進<br>・職場における労働者の安全と健康を確保し、快適な職場環境の形成を促進する |
| 古物営業法 | | ・盗品の売買の防止、速やかな発見等を図るため、必要な規制を行い、犯罪の防止を図り、その被害の迅速な回復をはかる |
| フロン排出抑制法 | 第16条 | ・機器使用環境の維持保全、簡易点検 |

## （2）違反、訴訟等

当社における環境関連法規への違反は過去三年間ありません。また、関係当局からの指摘は無く、訴訟もありませんでした。

# 10. 許認可情報等

| 産業廃棄物収集運搬業許可一覧 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 許可行政 | 許可番号 | 許可期限年月日 | 優良認定 | 許可年月日 |
| 広島県 | 第03409004558号 | 平成33年09月01日 | ㊇ | 平成26年09月02日 |
| 岡山県 | 第03307004558号 | 平成35年06月18日 | ㊇ | 平成28年07月01日 |
| 島根県 | 第3200004558号 | 平成30年11月07日 | | 平成25年11月08日 |
| 山口県 | 第03500004558号 | 平成30年11月24日 | | 平成25年11月25日 |
| 鳥取県 | 第03104004558号 | 平成33年07月05日 | ㊇ | 平成26年07月06日 |
| 愛媛県 | 第3805004558号 | 平成30年08月28日 | | 平成25年08月29日 |
| 高知県 | 第03900004558号 | 平成34年09月04日 | ㊇ | 平成27年09月05日 |
| 徳島県 | 第3600004558号 | 平成35年10月23日 | ㊇ | 平成28年11月08日 |
| 香川県 | 第03709004558号 | 平成30年05月26日 | | 平成25年06月06日 |
| 兵庫県 | 第02803004558号 | 平成34年08月30日 | ㊇ | 平成27年08月31日 |
| 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可一覧 | | | | |
| 許可行政 | 許可番号 | 許可期限年月日 | 優良認定 | 許可年月日 |
| 広島県 | 第03459004558号 | 平成35年11月28日 | ㊇ | 平成28年11月29日 |
| 岡山県 | 第03357004558号 | 平成35年06月18日 | ㊇ | 平成28年07月01日 |
| 島根県 | 第3250004558号 | 平成35年09月02日 | ㊇ | 平成28年09月03日 |
| 山口県 | 第03550004558号 | 平成30年11月24日 | | 平成25年11月25日 |
| 鳥取県 | 第03154004558号 | 平成31年02月01日 | | 平成26年02月02日 |
| 愛媛県 | 第3855004558号 | 平成30年08月28日 | | 平成25年08月29日 |
| 高知県 | 第03950004558号 | 平成34年09月04日 | ㊇ | 平成27年09月05日 |
| 徳島県 | 第3650004558号 | 平成35年10月23日 | ㊇ | 平成28年11月08日 |
| 香川県 | 第03759004558号 | 平成30年05月26日 | | 平成25年06月06日 |
| 兵庫県 | 第02853004558号 | 平成34年08月30日 | ㊇ | 平成27年08月31日 |

| 産業廃棄物処分業許可一覧 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 許可行政 | 許可番号 | 許可期限年月日 | 優良認定 | 許可年月日 |
| 広島市 | 第07320004558号 | 平成34年03月21日 | ㊇ | 平成27年03月22日 |
| 呉市 | 第07422004558号 | 平成30年07月28日 | | 平成25年07月29日 |
| 特別管理産業廃棄物処分業許可一覧 | | | | |
| 許可行政 | 許可番号 | 許可期限年月日 | 優良認定 | 許可年月日 |
| 広島市 | 第07370004558号 | 平成34年09月27日 | ㊇ | 平成27年09月28日 |

| 施設 | 処理方法 | 処理能力 | 事業所 |
|---|---|---|---|
| 回転炉床式焼却炉 | 焼却 | 6.6t/日 | 本社工場 |
| ロータリーキルン焼却炉 | 焼却 | 4.8t/日 | 本社工場 |
| 二軸剪断式破砕施設 | 破砕 | 木くず6.0t/日・・他 | 本社工場 |
| 縦型圧縮梱包器 | 圧縮 | 繊維くず4.49t/日・・他 | 本社工場 |
| 電気ヒーター熱分解方式 | 溶融 | 50㎥/時 | 本社工場 |
| 移動式脱水車 | 移動脱水 | 50㎥/日 | 本社工場 |
| 固化施設 | 固化 | 50㎥/日 | 本社工場 |
| 天日乾燥施設 | 天日乾燥 | 50㎥/日 | 本社工場 |
| 連続中和装置 | 中和 | 48㎥/日 | 本社工場 |
| 安定化処理施設 | 安定化 | 4t/日 | 本社工場 |
| 発酵施設 | 発酵 | 70t/日 | 倉橋工場 |

| 区分 | 産業廃棄物収集運搬 | 産業廃棄物処分業 |
|---|---|---|
| 燃え殻 | ○ | |
| 汚泥 | ○ | ○ |
| 廃油 | ○ | ○ |
| 廃酸 | ○ | ○ |
| 廃アルカリ | ○ | ○ |
| 廃プラスチック類 | ○ | ○ |
| 紙くず | ○ | ○ |
| 木くず | ○ | ○ |
| 繊維くず | ○ | ○ |
| 動植物性残渣 | ○ | ○ |
| 動物系固形不要物 | ○ | ○ |
| ゴムくず | ○ | ○ |
| 金属くず | ○ | ○ |
| ガラス・陶磁器くず | ○ | ○ |
| 鉱さい | ○ | |
| がれき類 | ○ | |
| 動物のふん尿 | ○ | |
| 動物の死体 | ○ | |
| ばいじん | ○ | |
| 産廃処理物 | ○ | |
| 石綿含有産廃を含む | ○ | |

| 区分 | 特別管理産業廃棄物収集運搬業 | 特別管理産業廃棄物処分業 |
|---|---|---|
| 廃油 | ○ | ○ |
| 廃酸 | ○ | ○ |
| 廃アルカリ | ○ | ○ |
| 感染性産業廃棄物 | ○ | ○ |
| 特定有害産業廃棄物 | | |
| 燃え殻 | ○ | ○ |
| 汚泥 | ○ | ○ |
| 廃油 | ○ | ○ |
| 廃酸 | ○ | ○ |
| 廃アルカリ | ○ | ○ |
| 鉱さい | ○ | ○ |
| ばいじん | ○ | ○ |

## 処理工程図

○ 産業廃棄物
- 汚泥
- 廃油
- 廃酸
- 廃アルカリ
- 廃プラスチック類
- 紙くず
- 木くず
- 繊維くず
- 動植物性残さ
- 金属くず
- ガラス陶磁器くず
- 動物系固形不要物
- ゴムくず

○ 特別管理産業廃棄物
- 引火性廃油
- 引火性廃油（有害）
- 強酸
- 強酸（有害）
- 強アルカリ
- 強アルカリ（有害）
- 感染性廃棄物
- 燃えがら（有害）
- 廃油（有害）
- 汚泥（有害）
- 廃酸（有害）
- 廃アルカリ（有害）
- ばいじん（有害）
- 鉱さい（有害）

受け入れ → 質量計量 → 本社工場 / 倉橋工場

| | | |
|---|---|---|
| 廃プラスチック類 **溶融** | | リサイクル・売却（委託） |
| ｶﾞﾗｽ・陶磁器くず **回収** | | 安定型埋立（委託） |
| 廃プラスチック類 紙くず、木くず **破砕** | | リサイクル・売却（委託） |
| 廃酸、廃アルカリ 強酸、強アルカリ **中和** | | リサイクル・売却（委託） |
| 廃プラスチック類 繊維くず、金属くず 紙くず **圧縮** | 汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず 繊維くず、動植物性残渣、金属くず、ガラス陶磁器くず ゴムくず、動物系固形不要物、引火性廃油、 感染性廃棄物、引火性廃油（有害）、強酸、強アルカリ、 廃油（有害）、汚泥（有害）、廃酸（有害）、廃アルカリ（有害） 強酸（有害）、強アルカリ（有害） **焼却** | リサイクル・売却（委託） |
| 汚泥 **移動脱水** | | 管理型埋立（委託） |
| | 汚泥 **固化・天日乾燥** | 管理型埋立（委託） |
| | 燃えがら（有害）、汚泥（有害）、廃酸（有害） 廃アルカリ（有害）、ばいじん（有害） 鉱さい（有害） **安定化** | |
| **紙くず回収** | | リサイクル・売却（委託） |
| **金属回収** | | リサイクル・売却（委託） |
| | 汚泥 **堆肥化（発酵）** | リサイクル・肥料化 |

## 収集運搬車両数量等

### 吸引車（10ｔ/4ｔ）：4台

吸引車は、大風量のブロワでタンク内を負圧にし、ホースの先から吸引します。
液体物だけでなく、泥状物や粒子状の固形物の吸引が可能です。

### ダンプ車（10ｔ/3ｔ/2ｔ）：5台

スタンダードなダンプ仕様に加え、水蜜性箱型ダンプ仕様も用意して、あらゆる廃棄物に対応できるようにしています。

### ウイング車（8ｔ/4ｔ/2t）：3台

主にドラム缶やフレコンバッグ等、容器に入れられた廃棄物を運搬する車両です。
8ｔ車では一度に34本のドラム缶を運搬することができます。

### コンテナ車（10ｔ/4ｔ）：6台

お客様のところに専用コンテナを設置し、廃プラスチック類や脱水汚泥等の廃棄物を収集運搬する車両です。有機汚泥には密閉式コンテナも用意しています。

### ユニック車（4ｔ）：2台

トラックに取付けられたクレーンを使って、重量物を吊上げて積載する車両です。

### パッカー車（2ｔ）：3台

街中でよく見かけるゴミ収集車です。
小さな車両ですが、積載できる量は2ｔと多い車両です。

軽バンなどを合わせると全29台あり、あらゆる廃棄物に対応できるようにラインナップしています。

| 車種 | 車番 | 積載量(kg) | 車種 | 車番 | 積載量(kg) |
|---|---|---|---|---|---|
| 大型吸引車 | 1540 | 8850 | 4t水密ダンプ | 8840 | 3600 |
| 大型吸引車 | 1189 | 7970 | 3tダンプ | 4801 | 3000 |
| 4t吸引車 | 4707 | 2900 | 2tダンプ | 3425 | 2000 |
| 4t吸引車 | 8126 | 2470 | 2tパッカー | 8623 | 2000 |
| 8tウイング | 2838 | 6800 | 2tパッカー | 8624 | 2000 |
| 4tウイング | 3086 | 2250 | 2tパッカー | 8625 | 2000 |
| 2tウイング | 2509 | 1500 | 4tユニック | 3465 | 2850 |
| 大型ダンプ | 3762 | 9800 | 4tユニック | 3284 | 2550 |
| 大型平ボディー | 7480 | 14100 | 軽バン | 3392 | 350 |
| 大型アームロール | 2710 | 10900 | 軽バン | 4710 | 250 |
| 4tアームロール | 5565 | 3900 | 軽バン | 621 | 350 |
| 4tアームロール | 8156 | 4000 | TV車 | 9003 | － |
| 4tアームロール | 1851 | 4050 | 洗浄車 | 7428 | － |
| 3tアームロール | 8859 | 3000 | 給水車 | 7379 | － |
| 2tアームロール | 2843 | 2000 | | | |

# 11. 代表者による全体評価と見直しの結果

## 全体の評価

お陰様で、株式会社カンサイは50期を無事迎えることが出来ました。心より感謝致します。カンサイは人と人との調和・人と自然との調和を大切にし、全従業員の物心両面の幸せを追求する企業です。

私たちの目指す姿、将来への想いと志をより一層明確なものにするために、カンサイ理念手帳を作成致しました。全社員の足踏みを揃え、良いことがあっても悪いことがあっても、判断指針である手帳を手に取り、謙虚さと感謝の心を思い起こして、実りある人生を共に歩んでいきましょう。

株式会社　カンサイ

代表取締役社長　川本哉二

# 12. 編集後記

本格的な環境活動レポートを発行し始めて5年が経ちました。その間、他社の環境活動レポートを参考にし、環境省主催の環境コミュニケーション大賞等に応募したりと少しづつ内容の濃いものにしていきました。

廃棄物処理に伴う二酸化炭素排出量の記載は元より、社員間のコミュニケーションなど当社が取組んでいることを積極的に記載し公表することで、ステークホルダーの方々がこのレポートを手にしたときに、一目で当社の取組み内容が分かるようにと心掛けて編集をしました。

また、これからも多くの方のご意見を真摯に受けとめ事業活動に反映させて、環境への取組みや、地域貢献を継続して行い、「人と人との調和 人と自然との調和を大切に」の社是の元、皆さまから愛される会社づくりのひとつとして、このレポートの発行をこれからも継続していきたいと思います。

※なお、随所に高月紘先生の作品集のイラストを使用させて頂きました。

環境管理責任者
北川　貴伸

株式会社カンサイは、環境創造総合企業を目指しています

KANSAI

株式会社　カンサイ
住　所　〒731-5102
広島県広島市佐伯区五日市町大字石内460番地
連絡先　ＴＥＬ：（082）941-1641
ＦＡＸ：（082）941-1715
E-mail：　kansai@ekansai.co.jp
発行責任者　環境管理責任者・北川
エコアクション21事務局・舛本